

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800030		
法人名	堀建設 株式会社		
事業所名	グループホーム 悠心彩・中西		
所在地	島根県益田市市原町イ434-1		
自己評価作成日	令和4年1月10日	評価結果市町村受理日	令和4年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和4年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度も新型コロナウイルスの影響もあり、3密を避け、地域やご家族様との交流も中々行えなかったですが、その中でも出来る事を見つけ、アイデアを出し合い、行事参加出来るよう取り組んでいます。また、家庭的な雰囲気の中で個性を重視し、その人らしく暮らしていく事ができるよう支援しています。ご家族様へは、毎月写真付きの近況報告を送り、ご利用者様の生活場面が伝えられるよう、メッセージを添えてご本人様・ご家族様との絆を大切に、共に支え合う関係作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は様々な催し物や季節行事に利用者全員が参加できるようコロナ禍でも感染対策に注意を払い支援している。初詣は時間をずらして出かけ、天気の良い日は弁当持参で近くの公園に行き戸外での食事を楽しみ、隣接する施設との合同運動会、毎月の壁画作りや折り紙、ちぎり絵の飾り付けなど、利用者が楽しんで暮らせるよう工夫して支援している。理念の「その人らしく生活できるように」を意識して個別な対応を行い、転倒リスクのある利用者の「一人で歩きたい」の要望に、過剰介護にならないように気を付けながら声掛けや見守りを行い思いに応えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員がいつでも理念が見られるよう、ホール2カ所に掲示し、朝の朝礼時には理念と一緒に読み意識している。	掲示や唱和、日常の会話の中で共有しあい、「その人らしく生活できるように」理念に沿った支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響もあり、地域との交流は難しい状況ですが、地区の文化祭などには人混みを避けながら密にならないよう参加している。	毎年参加している地区の文化祭には、コロナ対策に留意し全員で出かけた。自分たちの作品や他の作品を見て喜んで貰えた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度もコロナウイルスの影響もあり3密を避ける為、地域との交流自体難しかった。地域の方やご家族などから認知症についての相談などあれば対応させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染拡大防止の為、運営推進会議を中々行う事が出来なかった為、書面を発送しての会議となった。取組などの内容について報告し、意見などあれば後日返送して頂いている。	利用者の活動状況や行事、研修内容、ヒヤリハットなどを報告し助言や意見を受けている。家族には書面を発送する前に電話で説明し多くの意見が得られるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルス感染拡大防止の為、2ヶ月に1回の運営推進会議も書面会議となっており、毎回ご意見を返送して下さり助言を頂いています。	運営推進会議で状況を伝え、意見や助言を聞いている。市主催のオンライン研修参加や介護報酬の改定時には相談をし協力を得て取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束廃止検討会を行い、その内容をスタッフ研修で報告し話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎回研修内容を変えてスタッフ研修会で話し合い、ケアの振り返りをしている。「スピーチロック」の研修を行い、言葉遣いに注意して行動を抑制しない声掛けや対応に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的にスタッフ研修で虐待防止について研修を行っている。毎月1回接遇の反省もを行い、ケアの振り返りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行い、自立支援事業や成年後見制度について学び、学んだ事を活用できるよう職員間で話し合いも行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前は面談を行い、不安や疑問点など質問があれば対応している。契約時には内容説明を行っているがコロナ渦の影響もあり県外のご家族には電話対応になる事もあったが説明はしっかり行い同意を得ている。改定等あれば文章を配布し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通じて報告し、意見や要望を頂いている。今年度もコロナウイルスの影響により書面のみでの報告になった。ご家族からの質問や意見があった際には職員に周知改善・見直しに繋げている。	毎月介護計画と一緒に日頃の様子を写真やコメントで伝え、電話で意見や要望を聞いている。現在、対面での面会を中止にしているが、家族からの要望で窓越しでの面会を実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ研修を行い、代表者・管理者・職員が参加し、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映に努めている。	朝礼時やスタッフ研修会、また何かあればその都度、職員から相談や意見を聞く機会を作っている。服薬管理などの職員の提案は検討し改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者を優遇し、給与水準の向上を図り、やりがいを持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの研修案内があれば掲示している。主にオンライン研修であったが、研修を受けられる様にし、資格取得への配慮も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年他施設のグループホーム職員との交流会や研修があったが、コロナウイルスにより、去年に引き続き今年も中止となっている。日原の事業所とは研修会や交流する機会を設け開催した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直接声かけをして、困っている事・不安な事・して欲しい事・要望などお聞きし、不安にならないようにコミュニケーションをとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	月に1度ご家族に電話をして、ご家族が思っておられる事・要望などに耳を傾け、信頼して頂けるよう状況説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の情報収集をはじめに行っている。必要としている支援については、管理者・ケアマネ・職員で協議し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人にあった役割・出来る事を見つけて、共同生活を毎日送られる様支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠くにおられるご家族については、月に1度電話でお話して頂いている。声を聞く事により安心して頂いている。ご利用者との話を大切にして、要望など確認し、必要物品等をご家族に持参して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者大切にしてきた地域や馴染みの方についてお話を聞かせて頂いたり、ドライブなどで街並み、働いていた職場など、昔を思い出していただき関係継続に努めている。	これまでの生活の中での馴染みの場所をドライブしたり、回想法を用いて関係継続に努めている。面会は感染状況に応じて窓越しやアクリルカーテンを使用して支援し家族との関係を大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を大事にして、同じテーブルに座って頂いたり、レクリエーション・行事はいつも一緒に仲良く楽しく参加され、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居により契約終了された方には、転居先に出向き、その後の様子を伺いに行き、必要な時は相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の要望・意向の把握に努め、困難な場合、ご家族に意向を確認しながら支援を行っている。	利用者との会話を増やし思いや意向の把握に努め、意思疎通が難しい時は家族から情報を聞いている。情報は共有し、ケアプランに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の生活歴や暮らし方、環境等の情報収集を行い、施設内の生活支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の様子等、月に1度のスタッフ研修時に職員全員で情報交換を行い支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月末に介護計画やモニタリングを担当者がご家族に連絡している。詳しく現状を説明し、ご家族からの意見を頂いたりし、ケアプラン作成している。	ケアプランの更新時やモニタリングをした時、物品を依頼する時などに要望を聞き現状に即した介護計画を作成している。畑仕事や裁縫が好きな事をプランに取り入れて充実した生活を送れるように支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録はケアプランに沿ってタブレットに記録している。課題があればその都度カンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウイルスの影響がまだ続き、外出・外泊等、制限している。ご家族へも電話・文章でお伝えし、ご利用者にも納得して頂ける様、声かけ支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度もコロナウイルスの為、地域の方との交流は出来なかったが、地区の文化祭に作品を出し、見学する事が出来た。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、主治医の往診があるが、ご本人及びご家族の希望でかかりつけ医に受診する方もいる。他の医療機関への受診が必要な場合は、主治医やご家族と相談し、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医の受診はコロナ禍の為看護師が同行している。他の医療機関の受診は家族が対応する時もある。受診後家族へ報告し、検査結果も定期的に家族に送り情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきや変わり事があった場合には看護師に伝えている。状況によってはご家族やかかりつけ医に相談し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での生活状況の情報を提供している。また、入院中の様子についての情報を提供して頂き、早期退院出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ご家族と重度化した場合や看取りの意向を確認している。施設で出来る範囲の説明を行い、ご本人・ご家族の意見を尊重して方針を共有している。	事業所の方針を伝え、利用者や家族の意向を確認し、関係者と方針を共有している。今年度、看取りの支援に取り組んだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1回、全職員が救命講習(AED使用)を受講している。急変時の対応は看護師に相談し、日頃から備えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。日中・夜間想定を行い、どの職員も対応出来るようにしている。	スタッフ研修で過去の大雨や台風、停電などの災害を話し合い、連絡体制の確認や持ち出し物、備蓄品の点検など各自普段から意識している。感染対策のマスクや消毒液など以前より多く備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月、接遇のアンケートを取り、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応が来ているか振り返りを行っている。	気になる言葉かけや対応についてスタッフ研修や朝礼時に話し合い意識して取り組んでいる。排泄や入浴時にはプライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや要望が表しやすいような雰囲気作りや関わりをするようにしている。また、自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望も聞きながら、個々の生活パターンに応じた支援をするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが整えられるよう、洗面台近くにブラシ・髭剃り・化粧水など置いて使ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日献立を読んで頂き、合せて料理の説明もしている。出来る方にはテーブル拭き・食器洗い・米研ぎ・野菜の下処理などを職員と一緒にしている。	利用者に毎日献立を読んでもらい「食」への楽しみを引き出している。自分たちで作った野菜を使った料理や行事食、おやつ作りなど一緒に行い、利用者の力を発揮できる場を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量・間食など、タブレットで管理し、健康状態に気を付けている。嚥下咀嚼状態に応じた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔状態に応じた口腔ケアを行っている。眠前には義歯の消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの排泄パターンを職員間で共有し、パットや紙パンツなど必要に応じて使用している。	排泄パターンを把握し、利用者にあった紙パンツやパットを使用し、見守りや声掛けを行いトイレで排泄できるように支援している。声掛けの工夫で、トイレや衣類の汚染が減った利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便表で排便状況を確認している。便秘気味のご利用者には水分量や食事量に注意し、毎日のリハビリ体操など運動をし、予防するように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分に応じて、一人ひとりの希望に合わせて支援を行っている。浴槽内の温度や室内温度も調整をし、入浴しやすい環境作りに努めている。	回数や同性介助、仲のいい利用者同士での入浴など希望に応じた支援をしている。冬はゆず風呂にして利用者に楽しんで貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の洗濯や居室の換気、掃除を行い、環境整備をしている。日中には、居室やホールでいつでも自由に休めるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬文献綴りにより、ご利用者がどんな薬を処方されているか職員全員が知る事が出来る。服薬の変更や臨時薬が処方された時は看護師より報告があり、職員間で情報共有している。変わり事があった時などは看護師にその都度相談し指示をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、したい事や出来る事を見つけて支援している。施設内行事に参加して頂いたり、ドライブにお誘いし気分転換し楽しんで頂けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や気温に応じて、希望があれば散歩や日光浴を楽しんで頂いている。戸外への外出は3密を避けながら可能な時は地域の小規模イベントに参加したり、楽しんで頂けるように支援している。	地区の文化祭や花見、ドライブに出かけている。天気の良い日には、テラスで日光浴や散歩、畑仕事など戸外での生活を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどのご利用者は、ご家族がお金の管理をしている。ご利用者より要望があればご家族に承諾を得て所持することは出来る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から荷物などが届いた時などに職員が電話をかけてご家族とお話して頂いている。ご利用者からご家族へ電話したいと要望があれば電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ホールには季節感を取り入れた飾りや壁画にするよう工夫している。ホールや居室の適度な温度調節もしている。	季節感を取り入れた作品を利用者と一緒に飾っている。どの位置からもテレビが見られるようにソファを設置し、音量に配慮して心地よく過ごせるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの席を気の合う方同士を隣にしたりし話ができるように座る場所を考えている。また、日中居室で過ごしたい方には居室で過ごして頂くなど、ご利用者の方の要望に応えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に入居前に生活の様子を聞き普段の生活に近づける様、家具の配置を行っている。また、入居時に自宅から使い慣れた筆筒やテレビを持って来て頂くなどしている。	家具やテレビ、家族の写真、使いなれた日用品など持参している。テレビが好きな利用者には、新聞のテレビ欄をチェックしてメモ帳に記入し、居室で楽しめるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札をして部屋がわかるようにしている。可能な方には洗濯物を整理して頂くよう、筆筒にシールを貼り自立に向けた工夫をしている。		